大井川保育園　保育研修会　　令和５年 11 月１日（水）

＜保　育　者＞　２歳児　れんげ組　　担任　尾崎あゆ美　保育士　　八木由紀子　保育士
＜研修テーマ＞　自分からチャレンジする子を育むための環境と援助の工夫
＜ね　ら　い＞　友達や保育士と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。

走りたくなる！追いかけたくなる！

こぶたの家の数や大きさ、思い切り走り回ることができる空間（距離）などを少しずつ変えながら、これまで引っ越し遊びを楽しんできました。

保育者が被ったおおかみのお面に子どもたちが注目。「みてみて！先生、おおかみ！」の呼びかけに、「わ～！」と子ども達の心が動きだします。先生のようにおおかみになりたい子は、お面を被ると、大張り切り！お面があることで役割が明確になり、逃げること、追いかけることを存分に楽しみました。

おうちに入れば、たべられないよ！

「わー、きたー！にげろー！」「〇〇ちゃん、（おうちに入らないと）たべられちゃうよ。」「（追いかけてきたおおかみに向かって）おうちに入ったもんね。ぶっぶー。」保育者がさりげなくかける言葉から、子ども達はルールやストーリーを自然に感じとっていました。イメージが少しずつ重なりあうことで、こぶたを追いかけるおもしろさ、おおかみから逃げるおもしろさなど、一人一人が遊びの魅力を感じながら楽しみました。

事後研修会（講師：常葉大学保育学部　講師　甲賀　崇史氏）

・同じ活動をしていても、一人一人の興味や関心は異なる。個々の楽しさの方向性は、違って当たり前。一人一人の“今”“もっとやりたい”を保障できたか、また楽しさを保障しながらも、心情や意欲を捉えることができたのかを振り返りたい。
・用意した様々な環境は、それぞれの楽しさの方向性に対応したものであった。
・ねらいは、乳幼児の場合、「その方向に向かって進んでいる」ということを評価する。心を動かす体験（心情）が、意欲となり態度となって表れる。態度として表れていなくても、心の動きを捉えていくようにしたい。

事後研修会では、他園の保育者の方が参加してくださり、充実した協議が行われました。